

# 秋の散策

## (堺を歩く)

晩秋にさしかかった11月22日 仁徳陵や中世の面影を残す堺を散策しました。

10時半南海堺東駅に集合し、駅前の観光案内所で文化財入場券とバス電車のチケットを購入し、案内資料をもらう。

まず、目の前に聳える堺市役所の21階展望ロビーで、ボランティアさんの案内で堺市の四方全景を俯瞰。南蛮貿易での富の蓄積、自由都市時代の環濠、茶の湯の利休、鉄砲鍛冶、大阪夏の陣での焼き討ちによる焼尽。与謝野晶子の生家のことなどのガイドをうける。西に淡路島、大阪湾、北には日本一のアベノハルカス、東には生駒、古代の国道1号と呼ばれる竹之内街道に通じる二上山、葛城、金剛山に囲まれ、近くに見える仁徳陵や履中陵はさすがに大きく小山のようである。

そのあと、少し早い昼食。バス路線の連絡悪く、仁徳陵の近くまで行き、仁徳陵の北端から外堀に沿って1キロ程を歩く（全周3km有）。

仁徳陵は墳丘長486m、3重の堀に囲まれ、それを入れると約1000m、丁度横を走るJR阪和線の三国ヶ丘駅から百舌鳥駅までの一駅の長さがある。

次いで大仙公園内にある堺博物館で仁徳陵の出土品の絵図、レプリカ考古資料、火縄銃、南蛮貿易時代の帆船、町屋、茶の湯などの歴史資料を見学。次いで南宗寺に向かう。三好長慶が建立し、大阪夏の陣で焼失後、沢庵和尚により再建されたお寺。(1619) 普段見られない天井に八方にらみの龍（どの方向から見ても同じ目が見える）が描かれた仏殿。表千家、裏、武者の小路三家の供養塔。医薬で有名な仲井家の墓とキリシタン花入れ。徳川家康の墓の伝説—2代秀忠、3代家光がわざわざこの寺に詣でており、ガイドさんの説明にはロマンがあり、興味をひかれる。

利休好みの実相庵の茶室も見学。

南宗寺を出て、すぐ近くに、この時期の特別公開期間だけしか見られない呂宋助左衛門の屋敷跡と伝えられる大安寺で、重文の金箔襖絵や高貴の人を迎えた上段の間を拝観。

ここから約1.5km程歩き、開口（あくち）神社に向かい、お茶のお点前を受ける。お茶請けの八百源のニッキ味の饅頭が美味い。

更に1km程歩いて妙国寺へ。この寺も三好長慶一族により建てられ、堺がも

つとも繁栄していた時代には迎賓館として利用され、信長、家康なども訪問している。境内には大蘇鉄があり、信長が所望して安土城に移植されたが、毎夜堺に帰りたいと泣いたため堺に戻されたとの伝説がある。慶応4年（1868）の堺事件で土佐十一烈士切腹の場所にもなり、遺品が残されている。（森鷗外や大岡昇平の小説で有名）道路をはさんだ寺前にはその烈士の墓もある。

黄昏が迫り、鉄砲鍛冶屋敷などを見ることが出来ず、バスで元の堺東駅に戻る。丁度午後五時。交通が不便で、参加者が少なくて残念でしたが、充実した歩数八千の散策でした。 お疲れ様でした。

（色染・昭35年 園田英雄）



仁徳天皇陵にて （写真左側から）

松原美砂子（50年）中東弘三（38年）佐藤忠孝（34年）

法貴英夫、園田英雄（35年）